

学 科	服飾美術学科	担 当 教 員	服飾美術学科全教員		
授 業 科 目	インターンシップ I		科目区分	専門科目	1 単 位
必修・選択	選択	授業形態	実習	開 講 時 期	1年次・通年（集中）
授業の主題 目 標	大学で学んでいる服飾美術の専門知識と技術をもって、企業におけるアパレル生産・流通等を実際に体験して、量産システムにおける知識と技術を学習すること及び職業人としての自覚を涵養する。				
授業の内容 進 め 方	1. 工場インターンシップ 1) インターンシップは、基本的にはインターンシップ受け入れ企業の事業内容、インターンシップ受け入れ態勢及び勤務規則に従って実施する。 2) 1社当たり2～8名単位で行うものとする。 3) インターンシップ内容については、企業と大学間で打ち合わせた基本線に準じて企業が詳細計画を作成し、担当指導者またはその代行者の指導の下で実施する。 4) アパレル企業における工場インターンシップ例を次に示す； ①全般概要 ②CAD・CGによる作業 ③量産方式による縫製実習 ④仕上げ ⑤商品検査 2. 実習期間 原則として、1週間 定期試験は実施しない				
実務経験を 活かす内容					
テ キ ス ト 教 材	参考資料 『ひとはなぜ服を着るのか』 鷺田清一（ちくま文庫）， 『河北秀也のデザイン原論』 河北秀也（新曜社）， 『アパレル科学概論（生活環境学ライブラリー）』 松生勝 編著（朝倉書店）， 『平成30年度80テーマで要点整理 ITパスポートのよくわかる教科書（情報処理技術者試験）』 福嶋宏訓 著 原山麻美子 編著（技術評論社）				
準備学習の 具体的内容	インターンシップ先企業に関する予備調査をすること。				
評価の方法 基 準	インターンシップ先企業の評価（80%） 実習日誌・レポートの評点（20%）				
履 修 上 の 注 意	インターンシップ先企業毎の就労規則に準じて実習するので、特別の理由なく遅刻や欠勤をしないことや安全守則を厳守することなどの社会人としての規律と自覚を持って実習することが必要である。				